



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2019年6月2日

No. 61

わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。

わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。

心を騒がせるな。おびえるな。

ヨハネによる福音書 14章27節



礼拝献花より

神と共に 人と共に

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL: <https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『平和の神が』

牧師 佐藤和宏

ヨハネ14章23節～29節

今日の日課で主イエスは「父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む」と言われています。ここで「住む」と訳されているのは、「モネー」というギリシャ語になります。そして、この「モネー」は、ギリシャ語「メノー」の派生語になります。この「メノー」が繰り返して用いられているのが、続く15章の『イエスはまことのぶどうの木』と小見出しがある箇所になります。ここで繰り返されているギリシャ語「メノー」は「つながる」、また「とどまる」と訳されています。もちろんこれもまた「住む」という意味を併せ持っているのです。

この箇所、すなわち15章を読むとき、イエスは「つながっていないさい」、また「とどまりなさい」と繰り返し使っていますから、どうしても、私たちはつながらなければならない。とどまらなければならないと考えます。

人の頑張り、人の信仰的な熱意が人を神とつながらせ、神にとどまらせる力であるかのように思ってしまうのですが、実はそうではなく、前提にあるのは、14章に見いだされる「父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む」ということではないかと思うのです。つまり、神が私たちのところに来て、一緒に住んでくださる。これこそ、神と人が「つながっている」ことであり、「とどまっている」ことなのです。人がつながらなければならぬと頑張りつつながろうとし、とどまっていなければならぬととどまる、のではなく、神が来てつながってください、とどまってください、これが神と人がつながるということであり、人は神にとどまる者とされるのです。そしてこれこそ「神が人のところに来て、一緒に住む」ということなのです。

「一緒に住む」という言葉に注目してまいりましたが、もう一つ目を向けたいののは、次の言葉になります。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしをこれ、世が与えるように与えるのではない。」

「平和」と言いますと、一般的な辞書は「何事もなく、平穏無事な状態」と解説しています。このことからこの世の平和とは、「何事も起こらないこと」であるとわかります。一方イエスは「わたしの平和」について「世が与えるように与えるのではない」と言われていますから、それは「何事も起こらない」この世の平和とは、違っていることを示しています。

イエスの平和について考えるとき、私はマルコによる福音書4章35節以下の一場面を思い起こします。「聖書略」。この場面に、私たちの平和とイエスが与える平和とが示されていると言えるでしょう。私たちの平和は、先に触れましたように、「何事もなく、平穏無事な状態」ですから、風がなく、波が穏やかなときを平和とするのです。しかし、一旦風が吹き荒れ、波が高くなると、一瞬のうちにそのような平和は失われてしまうのです。

一方、イエスの平和とは、風や波が穏やかなときにも、風や波が荒れ狂うときにも、彼らの乗る舟にイエスが共におられるという事実に基づく平和です。私たちが、本当に目を向けなければならないのは、周囲の

状況ではなく、その舟に変わらずに共に乗っていくくださる方との変わることをない関係にはかならないのです。そして、このイエスの姿に、今日「父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む」と言われた言葉を思い起こすのです。

主が、私たちのところに来て、一緒に住む。私たちが悩みや苦しみに、不安を抱える現実のただ中に、神が来て、一緒に住んでくださる。たとえ私たちが置かれている状況は平穏に見えないときにも、この一緒に住んでくださる神によって、安心して生き始めることができるのです。主の平和にあつて生きるとは、こういうことなのです。そして、平和の主は、すべての人が、あらゆる自然、環境がこの主によつてもたらされた平和のうちに、共に生きることが望まれているのです。平和の主が共にいてくださる、この神の平和のうちにあることを知って、私たち教会の交わりは平和を実現する群れとして用いられていくのです。

「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」からです。(復活後第5主日)

ドレスデンでの イースター

○山○子

もう20年程前になるでしょうか、娘のドイツ留学を機にドイツに関する本を読んでいた時のことでした。ある一枚の白黒写真に私の目は釘付けになったのです。

それは、1743年にドレスデンに建てられたフラウエン（聖母）教会が、第二次世界大戦時の1945年2月に英米同盟軍の大爆撃で大崩壊。

その時の瓦礫をドレスデン市民が集めて、道路脇の柵に番号を振って保管してある様子を写した写真でした。え？番号振って？瓦礫を保管!?戦後、ドレスデンは東ドイツになり、教会どころではない情勢の中で、瓦礫はそのまま。1990年10月の東西ドイツ統一を機に復興の機運が高まり、1994年やっと復元工事が着手されたというのですから、ドレスデン市民は希望を失わず、なんと49年間も再建の時を待っていたということになります。

私はこの本を読んで、鳥肌が立つ



■瓦礫を保管していた柵

思いで、いつかドレスデンに、この再建されたフラウエン教会を見に行きたいと強く思ったのでした。

再建はまるでジグソーパズルのように、保存してあった黒く焼けた石材を可能な限り元の場所に使い、足りない所は新しい石材で作るという困難を極める作業だったのですが、爆撃したイギリス、フランス、アメリカはもちろん、世界中から団体、個人を問わず多くの寄付と種々の形の援助を集めて、11年後の2005年秋に元の形に蘇ったのです。

2005年はちょうど孫がベルリンで生まれた年でした。手伝いに渡した夏に夫と二人でドレスデンに

■フラウエン教会前広場で○山夫妻。左手にルター像。

円内は、空襲で黒く焼けた石材と新しい石材でできたモザイク柄（部分）を拡大したもの。



■爆撃で崩壊した教会（中央にルター像）

行ってみました。残念ながら完成まであと数か月待たなければならぬ時で、工事用の幕で覆われた姿しか見られませんでした。

それから13年経った今年のイースターに、私たちは、なんと、再びドレスデンに立っていたのです！

4年前の夫の癌の手術からずっとドイツ行きは実現せず、昨年夏に、今度こそは、と準備していたら、再発が見つかり……。

それでも、この春には思い切ってイースター休暇で孫息子のお休みの2週間を目指して、二人でベルリンへ飛ぶことになりました。そして、

ドレスデン地図



Copyright © 旅行のとも、ZenTech

娘が、「イースターを挟む4日間をドレスデンで過ごす」計画を立ててくれたのを知った時は、やっと長年の夢が叶うと心が躍りました。

20日のドレスデンはイースター前日とあって観光客で大賑わい。フラウエン教会は、何度も何度も写真で見たとおりの美しいフォルムで広場の真ん中にそびえていました。

教会を目の前に白と黒のモザイク状態の外壁に触れ、ああ、ドレスデンにきたのだという思いと、瓦礫を集めたドレスデン市民の熱い思いが一緒になって大きな感動を覚えました。

この日は観光客などに向けての、オルガン演奏とドイツ語と英語のメッセージ集会がありました。フラウエン教会の復元の過程、多くの援助と支えの感謝、そしてこの教会が

「希望と和解の歴史」の象徴であることを伝える内容で、会堂は多くの人で溢れました。

翌々日22日のイースターマンデーは、11時からの礼拝に、家族揃って出席。

荘厳なパイプオルガンの前奏で始まった礼拝は、「藤が丘教会」での礼拝と同じような流れで進み、

初めの讃美歌は私達の「教会讃美歌」の101番！ドイツ語を

たどりながらも嬉しくなって大きな声で歌うと13歳の孫息子が「オーマ、知ってるの？」とびつくり顔。

そしてグロリア・パトリ、キリエ、グロリア、ニケア信条、主の祈りなどと一緒に、最後は祝福も同じ。知っている讃美歌も101番の他、4曲中3曲も！

実は、フラウエン教会は、ザクセン福音ルター派州教会に属している教会。

内部はカトリック教会のように装飾的で聖壇も天井も見えてしまうほど美しいのですが、ルター派のプロテスタントなのです。そしてこの教会の正面広場には「聖書を持ったルター」の大きな像が！パイプオ

ルガンとトランペットの明るい後奏に送られて外に出ると早速、その像の前で夫と並んで写真撮ってもらいました。抜けるような青空でした。

さて、21日の

イースター主日は、と言うと、娘の知人でドレスデン近郊の町ブルスニッツの町長さんご一家の案内で、町の教会で子供たちと一緒に復活をお祝いする楽しい礼拝に出席したのです。その後お宅にも招かれて、ここでもまた、貴重な体験と素晴らしい時間を味わいました。

今回の2週間のドイツ滞在は、私たちが（特に夫が）いかに神様の恵みと、教会の皆さまや友人の方々の祈りに支えられているかということ、を、ひしひしと感じる毎日となりました。夫は心配していたことは何もなくて元気で滞在を楽しみ、帰って来ても元気でいます。感謝の言葉と気持ちでいっぱいです。

今月の受洗記念日の皆さん

2日 ○山○子姉

3日 ○村○子姉、田○子姉、○田喜○兄

6日 田○夫兄、○本○子姉、

武○子姉

10日 ○内○生姉

おめでとうございます。



喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。
ローマの信徒への手紙 12章 15節
藤が丘教会ウェブサイト <https://www.jelc-fujigaoka.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日曜日午前10時)

女性会だより

日時：5月19日 礼拝後

参加者：17名

①聖書の学び：創世記2章16節
23節 出会い・求める

神から最も良いものを、最も良い時に与えられることを信じ待つ

②その他・女性会連盟講演会
「アジアの女性達の神学が問いかけていること」藤原左和子氏
場所 日本ルーテル神学校
・女性会有志よりホームカミング
グデイにちらし寿司を提供。